



学校と自身の「リアル」に気づき、変化を生み出すワークショップ
(保護者とともに) 開催要項

1 趣 旨

「令和の日本型学校教育」の実現に向けて、子どもたちの学びの転換とともに、教職員自身の学び（研修観）の転換を図ること、実践と省察の往還や豊かな対話をとおして教職員研修の質を上げていくことが求められている。

そこで、学校（教職員）と家庭（保護者）の「リアル」をふまえ、教職員と保護者が豊かに対話しながら、これからの時代に相応しい学校像を描きあう「NITS カフェ」を開催する。

2 主 催

山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻（教職大学院）・教育学部
独立行政法人教職員支援機構山口大学センター

3 共 催

山口県教育委員会

4 開催日時

令和7年12月27日（土） 13:30～17:00

5 開催場所

公立学校共済組合山口宿泊所「セントコア山口」（2階 サファイアホール）
〒753-0056 山口市湯田温泉 3-2-7 Tel:083-922-0811

6 参加者

現職教職員、教育委員会関係者、教職志望学生、保護者、地域教育関係者や大学教職員 等

7 研修内容等

- (1) 開会挨拶 (13:30～13:40)
挨拶 山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻 専攻長 佐々木 司
- (2) ちゃぶ台ワーク（開示・共有・対話） (13:40～16:10)
テーマ 「学校と保護者のリアルから ～一緒に描く若手から中堅の先生像～」
助言者 山口県PTA連合会役員
FT 山口大学プログラム運営スタッフ
- (3) シェアリング (16:10～16:40)
助言者 山口県PTA連合会役員
FT 山口大学プログラム運営スタッフ
- (4) 閉会行事 (16:40～17:00)
講評 山口県教育庁教職員課 主査 大津 久美
挨拶 教職員支援機構山口大学センター センター長 和泉 研二

8 その他

- (1) 本研修事業は、独立行政法人教職員支援機構「NITS・教職大学院・教育委員会等コラボ研修プログラム支援事業」受託経費、同「山口大学センター」運営経費、山口大学教育学部「ちゃぶ台研修部」事業経費等により運営される。



コーホート

19年目のHop! Step! Jump!

ちゃぶ台次世代コーホート通信第1号
山口大学教育学部(ちゃぶ台方式教職研修部)
ちゃぶ台次世代コーホート事務局
山口県山口市吉田1677-1

「Advanced course」と「Basic course」本年度最初の合同研修会

10月4日の午後、本年度初のコーホート研修会(Advanced course第4回研修会)を、山口大学にて開催しました。今回の参加者は、受講生33人(現職教員15人、学生18人)、大学教職員11人、県教委1人、講師2人、託児スタッフ2人、計49人でした。一昨年度から、託児サービスも行っています。託児サービスは、受講生からの要望があること、主催者(組織)として「学び続ける教員」の育成や教職キャリアの形成支援には欠かせない課題、子育て支援や働き方改革に資する課題と捉えていること等をふまえて、実施しているものです。託児サービスが本研修会で行われることで、教職志望学生や若手教員にとっても、今後の教職キャリア形成をイメージすることにつながっていくと考えています。

この通信では、受講生の感想と写真で、研修会がどんな様子であったか、どんなことを学んだのか等についてお伝えします。

研修びらき

【自己紹介タイム】

「研修びらき」では、まず、自分の名前を使った自己紹介を行いました。

【チームビルディングの活動】

自己紹介を通して、班のメンバーと打ち解けたところで、以下のような活動を行いました。途中で海賊が出てきて、どんどんアイテムが奪われていきます!!!!

班で協力して解決しよう!

無人島にたどり着いた〇班のみなさん!

島には、小さな森、果物魚などの食べ物、そして、水がありますが、他には何もありません。

そこで、島で生き抜くために、何が必要だと考えますか。次に示すアイテムから必要だと思うものを5つ選んでください。

- | | |
|--------|------------------|
| A 鍋 | J 時計 |
| B 箸 | K ロープ |
| C 毛布 | L 鉛筆と紙 |
| D 傘 | M マッチ(100本) |
| E 望遠鏡 | N テント |
| F 包丁 | O 薬 |
| G 釣り道具 | P ライト(電池 24 時間分) |
| H のこぎり | Q トイレットペーパー |
| I 裁縫道具 | |



仲間と共に学びあうために

集い、交わり、学び合う楽しさ!

自分をみつめ、他人と対話し、互いのよさや魅力を認め合い、何かに気づき、共に高め合う...

それが「ちゃぶ台」です。

「初めまして」の方とも知っている方とも、深く関わることができました!

初めましての人たちとしっかりと交流ができました。ここでのアイスブレイクが、その後の研修の充実につながりました。特に、「あいうえお作文」は学級開きにも使えるし、今後管理職等になった際に職員室開き等に利用できると感じました。

(中学校教諭)

自己紹介をする際に、相手の印象に残る工夫をすることの大切さを改めて実感した。教員であれば、主に年度初めに新しいクラスの生徒や同僚の先生方に向けて自己紹介をする機会がある。その際に印象に残る自己紹介をすることで、その後の人間関係につながると考えるので今回のあいうえお作文以外にも自己紹介を考えておきたい。また、グループの方の意外な一面を知ることができたので素晴らしい時間となった。

(大学院M1)



改めて、共に学ぶ・学び合う意味について考えました！

無人島に持っていくものについて、最終的に残したいものが私たちの班ではみんな違っており、多様な視点から様々な意見が出ました。私は鍋を選びましたが、「刃物系がないと食料や寝床が準備できないのではないか」、「鍋は代替品を作ることはできないか」という意見を聞き、確かになと感じました。話し合いの最後に、「自分の意見を言うことができたか」、「相手の意見を聞くことができたか」という問いかけがありました。私は、話を聞いて相づちを打つことが多く、自分の考えを積極的に言えていなかった場面もあったので、話す聞くのバランスを考えながら、今まで以上に自分から話し合いに参加していくようにしたいです。(大学4年生)

今回の講義では、「無人島にもっていくなら何がいいか」という定番のテーマを用いた学級びらきの活動を体験した。20種類ほどの道具から5つを選び、グループ内で共有するという活動であった。途中で「海賊が来た」という想定が入り選択肢が減っていく等、ストーリー性をもたせた展開になっており、自然と話し合いが盛り上がった。この活動は一見よくあるお題ではあるが、学級びらきという場面に非常に適していると感じた。同じ課題に取り組みながら、互いの考えを出し合い、グループとしての合意形成を図るという経験を通して、学級の間関係づくりや集団の雰囲気づくりが促されていた。また、主観的な意見を尊重し合いながら、最終的に一つの選択をするという過程は、「自分と他者の違いを受け入れる」体験にもつながっていると感じた。さらに、活動後に各班で「重要な道具ランキング」を作成し、全体で共有する流れがあったことで、他のグループの価値観や考え方にもふれることができ、相互理解がより深まった。こうした仕掛けにより、単なるアイスブレイクに留まらず、協働的な学びの基盤をつくる工夫がなされていた。今後自分が学級づくりに関わる際にも、こうした「目的をもった楽しい活動」を取り入れ、生徒同士が自然に関わり合い、意見を尊重し合える雰囲気づくりを大切にしたい。(大学院M1)

正解のない問題にみんなで意見を出し合う楽しさを感じました。どの人も自分の考える正解を、みんなにわかってもらえるように一生懸命説明している姿と、自分の考えもありつつ、人の考えも尊重しようとする姿とが交差し合い、初めて集うメンバーとでも、他者と協働するチームがすぐにでき上がるのだと感じた。(特別支援学校教諭)

私自身はアドバンストの方からの参加なので、いつもと同じ雰囲気の研修会であると思っていた。しかし、今回から我々院生よりも若い層の学部生が入ってくることによって、新しいアイデアも付け加わり、よい流れになったと感じた。また、私自身は教育学部出身ではないので、教育学部の学生から出る話や現職の先生方からのお話はためになることばかりで、とても有意義な時間になった。(大学院M1)

研修びらきを受けて、常に何かしらの答えがあることばかりではないということを改めて感じた。問い次第で子どもの学びの中身が変わってくることを改めて感じた。だからこそ、子どもたちに投げかける問いが大事である。(中学校教諭)

学部生が参加していたことにより、(自身が他学部の出身ということもあり)教育学部ならではのつながりの広さをより感じる事ができた1日であった。また、同班の学部4年生は、学部2年生の頃から参加していると聞き、驚いた。院生だけでなく、こうして出会うことのできた学部生とも高め合い、資質向上に努めたいと考えている。(大学院M1)



講義・演習

★テーマ：集団・学級づくりの面白さと
教員としての関わり
香川大学大学院教育学研究科
准教授 大西美輪 さん





★★★★★参加者の感想を紹介します★★★★★

これからにつなげていきます！大切なことに気付くことができました！

集団・学級づくりの授業実践編で取り組んだリズムダンスが、とても印象的でした。「8844221111」のリズムに合わせてシンプルな振り付けで踊ることができるので、小学校の現場でやるということを考えても、子どもたちは簡単に楽しく取り組めるのではないかと感じました。私自身はまだ教育実習に行っていないですが、子どもの見取り方などについて、先輩方や先生方の意見なども聞きながら勉強することができて、充実した時間となりました。価値付けと、柔軟なアンテナを張るということが子どもたちと関わる上で重要なものだとことを学びました。また、大西先生が学級づくりのなかで取り組まれてきたことについて学ぶこともでき、将来教員になった時に取り入れてみたいなど感じることも多くありました。今回のコーホートでの学びと気づきを、教育や教員、子どもについて考える際につなげていきたいです。
(大学2年生)

集団・学級づくりは、今一番不安に思っていることでした。来年度から自分一人で学級を運営していかなければならないことに大きな不安を抱いていましたが、学級は子どもたちとともに作り上げていくものであり、その周囲環境や必要に応じた介入を適切に行なっていくことで学びやすい雰囲気づくりができると学ぶことができました。あと半年、どんな学級開きにしようかというところをじっくり考え、良いスタートを切ることができるよう準備していきます。(大学4年生)

先生のご実践から、頑張りやを写真という目に見える形で子どもに見せることで、言葉だけよりもその行動について考える機会を提供することにつながっていると学びました。子ども同士で誉め合うような学級づくりには、まず先生の視点が大切だと感じました。視点を意識していないと、子どもの素敵な行動を見逃してしまい、子どもたちの学びや成長の場を逃してしまうと感じました。子どもの頑張りやを当たり前とは思わずに、一つ一つの言動を丁寧に受け止めていくようにしたいです。また、今回実際にダンスを踊ってみて、子どもにとってもみんなのお手本になる経験は嬉しいものだと感じました。みんなに注目してもらえることやお手本になれることは、子どもに自己肯定感や達成感をもたせることにつながると感じました。みんなの前に走っていけるような子どもたちを育てるためには、日頃からクラスみんなに受け入れられる安心感や自信が土台にあると考えます。改めて、子どもたちのチャレンジを支える土台としての、つながりや安心感を感じられる学級づくりについて考えていきたいです。
(大学4年生)



学級目標を考える上で大切なこととして、「日頃からきちんと評価できるもの・達成感を得ることができるもの」となっていかなければならず、教師はこれを達成する場面をつくるのが求められているのだと理解した。評価においては、教師の評価だけでなく、生徒同士互いに評価し合うことができるようにすることも、必要になってくるのだと知ることができた。また、学級のリーダーシップについては、最初は教師が取りつても、徐々に生徒に移行させることが、学級において必要であるということであった。思わず教師としては率先してしまう気持ちが出てしまうだろうが、それを抑えて、生徒たちに責任を渡すという決意も必要になるのだと分かった。後半の「8844221111」でのダンス創作については、「動きをみんなで考えて、それを曲に合わせて全員で楽しく踊る」という、この年齢になってあまり経験することのないことを行うことができた。こういった「みんなで純粋に楽しめる」活動が、やはり、学級(集団)には大切になるのだと深く実感できるものであった。
(大学院M1)

学級級経営や集団づくりについて、これまでの教職経験を振り返る良い機会をいただきました。学級目標をつくらない先生が最近が増えていて、驚きました。子どもたちとビジョンを共有したり、何かあるごとに学級目標をみんなで確認したりしてきたので、学級目標は大事にしたいと考えました。また、みんなでリズムダンスを踊って、一体感を感じたり互いを認め合ったりする活動を通じて、私も現場で子どもたちに還元したいと感じました。
(中学校教諭)

参加させていただけてよかったです。それぞれの教師の得意分野で、子どもたちのよさや集団のよさを引き出す指導がすてきだと感じました。子どもたちが感じたことに対して、「なんでそう思ったの？」と教師が問いかけ、引き出すことが大事なことを改めて感じました。また、私自身どんな理論に基づいた実践を行っているのかを、もっと意識していきたいと感じました。
(小学校教諭)

先生の実体験や現場での写真を使った講義は、生徒の行動の変化が分かりやすくとても参考になりました。今の学校現場では、教室にカメラを持って行くのは厳しい状況になっているため、生徒の写真は撮れませんが、他の方法で生徒の行動の変化を記録できるような工夫をし、良い行動に対してはしっかり褒めることを大切にしたいと思いました。創作ダンスの活動では、現職の先生も大学生と一緒にダンスを考え、楽しみながら踊っているのが印象的でした。音楽とダンスと一緒に行うことで心が通じ合うことを実感した講義でした。
(大学院M1)

印象に残っているのは、教員が子どもたちをずっと掴んでいると、生徒の成長の邪魔をする可能性があるというお話である。あえて離すことで、子どもたちが自走し、より良い成長が期待できる。その際に、教員はいつでも戻れる居場所を子どもたちに対してつくっておくことが必要であることを学んだ。
(大学院M1)

教育は生徒を「個」でみながる。もちろん大切なことだが、学校に集う以上「集団」として見る目も求められていると改めて実感した。
(大学院M1)

正直な話、小学生の頃からダンスが非常に苦手でした。球技に熱中していた私は、なかなか楽しさを見出すことができず、体育の中で唯一の苦手種目でした。しかし、今回の講義を聞いた上での実践は、自分を俯瞰してみることもなく、自分事として楽しみ、そして学ぶことができました。こんなにも楽しく、すぐに実践できることも踏まえた学びは初めてで、実際に週明けすぐの体育の授業で、他の人の様子が見える状態でボール投げの活動を行いました。すると、いつも以上に子どもたちは活動の気付きを示してくれたので、いつもより実りある活動になったのではないかと感じました。ありがとうございました。
(大学院M1)

ダンス実習が、とにかく面白かった。初めて大勢の前で振り付けを披露することをしたが、今回は特に恥ずかしい思いをすることなくやり切ることができた。なんならもっとやりたいという気持ちが出ていた。この活動が生徒にどう映るのかについても考えてみたが、様々なことを感じ取ることができる活動になっていくだろうと感じた。
(大学院M1)

学級づくり・学級経営は教員にとって必ず必要なことだが、大学院生の私は自分で学級づくりをした経験はないし、学校実習を行う中で断片的に担任の先生方を学級づくりを見ることはあるが、まだ長期的に先生方がどのような工夫をされているのかを見て学ぶということができていない。大西先生の講義を受けることで、学級経営について学びを得ることができた。印象的だったのは、自分の得意なことをいかして学級経営をするということであった。他の先生方から学ぶことも大切だが、自分の個性を充分に発揮することも大切だと考える。自分にはどのような得意なことがあって、それを学級経営にどのようにいかすことができるのかを考えていきたい。
(大学院M1)

「クラス目標」を具体的な行動として明確にしておくことというお話が、とても印象的であった。これは、児童生徒にとっても教員にとっても大切であり、特別支援教育でも大切な考えだと感じる。具体的に行動を考えさせたり示したりすることで、児童生徒は目標達成のためにどうすれば良いのかがわかりやすくなる。すると、必然的に目標達成に近づくことができるだろう。すると、教師も評価しやすいく。つまり、褒める行動が何なのかがわかり、すぐに児童生徒に褒めるなどの肯定的なフィードバックが返せることにつながる。更に、大西先生が沢山写真を撮られていたように、褒める具体的な行動がわかるので、教師の「見つける目」が育ちやすいのかなとも感じた。写真は残すこともできるので、保護者の方に良い姿を伝える材料にもなり得るだろう。ここもいい！あれもいい！とどんどん見つけ、子どもにフィードバックとして返したり、掲示物に視覚的にわかりやすくポイントやカードがたまっていくことは、特別支援教育においても活かされる実践であると感じた。私も、耳馴染みのよい「明るいクラス」や「メリハリをつける」などに騙されず(スローガンとしてはいいと思うが)、どう行動していけば良いのかを明確にすることをまず大切にしたいと思った。
(大学院M1)



ちゃぶ台次世代コーホート

若手（20代～30代前半）現職教員（幼小中高特養栄）と
教職志望学生たちが共に学び、楽しみ、創る協働型研修プログラム

「教職」でつながる仲間が、お互いの教育実践や教育に対する思いを、ある時は不安や悩みを、先輩教員、保護者、教育委員会担当者、教育関係者等と共有し、励まし合い、支え合いながらある時はワイワイ騒ぎながら楽しんで歩く。そんな学びと歩みをご一緒にしませんか？



★申込
メールまたは
QRコードからGoogleフォームにて

【メールの場合】
■件名は、「ちゃぶ台次世代コーホート登録申込」とし、
■本文に、以下のことを打ち込み、事務局のメールアドレスに送って下さい。
・所属（教員は学校名・職名）
（学生は大学名・学部・コース・選修・学年・希望校種）
・氏名
・〒番号、住所、電話番号（連絡が付きやすいもの）
・Eメールアドレス
<注意>
*山口大学の学生は大学から割り当てられたアドレスを登録してください。
*事務局からのメールが受信できるように設定してください。
*データ受信の容量の関係で、携帯電話のアドレスに届かない場合がありますので、登録アドレスにご留意ください。

【フォームの場合】
■URL
<https://forms.gle/yo9w4viiqQZsKgZ9>
■QRコード



事務局：教育学部：藤上 真弓（ふじかみまゆみ） fujikami@yamaguchi-u.ac.jp
質問は、「藤上研究室（教育学部A棟205号室 083-933-5399）」へ

日程・内容・開催場所（予定）

*講義演習やワークショップ、協議で学びましょう

回	日時	テーマ	講師	会場
1	10月4日（土） 13:30～17:30	研修開き	山口大学教職員等	山口大学
		集団・学級づくりの面白さと教員としての関わり	香川大学教育学研究科 准教授 大西 美輪	
2 3	11月30日（日） 10:00～17:00	新しい学びを魅せる教育フェスタ in やまぐち（仮称）への参画 ①会員によるブース開設とワーク ②命のミュージアム in 山口大学	①会員 ②NPO法人 グリーフサポート山口 代表 京井 和子	山口大学
4	12月27日（土） 9:00～12:30	行列ができるかも？ 学校法務のNITS-Café ①学校の教育活動を法務の視点から探る	いたむら法律事務所 弁護士 藤村 亮平	セントコア 山口
5	12月27日（土） 13:30～17:00	保護者と集い・交わり・学び合う NITS-Cafe ①保護者との対話をとおして、学校や教育を考える交流会	山口県PTA連合会役員他	セントコア 山口
6	3月14日（土） 13:00～17:00	①授業づくりを楽しんで～100円グッズからの創造～	山口大学プログラム スタッフ	山口大学
		②これからの教育を動かす 皆さん、若手教員への期待	萩市教育委員会 教育長 池田 廣司	

*登録者には、毎回詳細についてメール配信し、出欠を確認します。

*本年度は、全ての会、「ちゃぶ台」を囲む教員の「夢」をステージーリーダーとしての「志」につなぐ協働型研修「ちゃぶ台次世代コーホート アドバンストコース（advanced course）」研修会と合同開催です。

